

第1回(仮称)草津市立プール整備基本計画検討懇話会 会議録

■日時：

平成30年2月15日(木) 10時15分～11時45分

■場所：

草津市立まちづくりセンター3階 309会議室

■出席委員：

伊勢坊委員、岡本委員、小川委員、小林委員、阪下委員、澤委員、杉江委員、
中野委員、松村委員、村井委員、山田委員、山本(雅)委員、山本(容)委員、横山委員

■欠席委員：

嘉悦委員

■事務局：

教育委員会 川那邊教育長、明石部長、田中副部長

スポーツ保健課 岸本課長、杉田参事、島川専門員、力石専門員、北中参与、
中井主査、三田村主査

(オブザーバー)

滋賀県県民生活部スポーツ局 中嶋副局長、矢野主任主事

(基本計画策定業務受託者)

株式会社 梓設計関西支社 両口氏、佐藤氏

■傍聴者：

2名

1. 開会

○川那邊教育長

おはようございます。本日、第一回(仮称)草津市立プール整備基本計画検討懇話会を開催いたしましたところ、皆様には委員就任のご快諾を頂き、そして本日ご出席を頂きましたこと、心より御礼申し上げます。また、平素より教育行政にご理解、ご協力を賜っておりますこと、心より御礼申し上げます。

さて、体カテストの小学校5年と中学校2年の結果が報道されましたが、本市は、中学校につきましては、全国に誇れるほどの数値を示していたわけですが、小学校につきましては、数年前、全国および県平均を下回る成績であり、なんとか力を入れなければならないということを課題にしてきたというところでございます。その間、立命館大学スポーツ健康科学部のご指導や地域研究、あるいはスポーツ関係団体の様々な協議に参加させて頂

きご助言をいただくなど、それぞれお力添えを頂いたところがございます。その結果、中学校はこれからまだまだ力を入れていきたいと思いますが、昨年度は特に小学校は県平均を超えるようになりました。今年度は、小学校は県平均を超え、いよいよ全国にほぼ近づいてまいりました。目標はまだだと思っていますが、皆様のお力添えの賜物と思っております。

また、ご承知のとおり、本市では平成 36 年に滋賀県での開催が予定されております、第 79 回国民体育大会、および第 24 回全国障害者スポーツ大会の開催がございます。成年男子・女子バレーボール、少年女子バスケットボール、少年男子ソフトボール、成年男子軟式野球の開催が内定をしているところがございますが、これに加えまして、昨年 10 月に滋賀県より本市がプール整備に係る支援市に内定し、これを受けまして、本市で国民体育大会、全国障害者スポーツ大会の水泳競技の会場として、さらに、ポスト国体を見据えて室内温水型プール施設を整備することが大変重要な課題でございます、(仮称)草津市立プール整備基本計画の策定を進めることとしたものでございます。

この施設に期待するものは大変大きなものがございまして、本市ならびに滋賀県のスポーツ環境の充実はもとより、新たなにぎわいの創出、スポーツ健康づくりの推進等を実現し得る施設となることを楽しみにしているところでございます。皆様には幅広い分野でご活躍を頂いておりまして、その豊富な見識から貴重なご意見を頂戴致したいと思っております。どうか皆様方のお力添えをお願いし、簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞ宜しくお願い致します。

2. 委員自己紹介、事務局紹介

出席委員の自己紹介（資料 2）及び事務局自己紹介

3. 会長、副会長の選出について

会長：岡本委員、副会長：小林委員

※ (仮称)草津市立プール整備基本計画検討懇話会開催要綱第 4 条に基づき、会長および副会長を選出

●会長

- ・ 2019 年ラグビーワールドカップ、2020 年東京オリンピックの開催が予定されており、多くの選手達がスポーツを楽しんでいると言っております。楽しむということは、色々な意味があると思います。その中で大事なことは、環境整備や選手、あるいは観客を支える組織整備と思っています。皆様から貴重なご意見を頂けることを是非願っております。宜しくお願い申し上げます。

●副会長

- ・皆様のご意見を伺いながら良い懇話会としてまいりたいので、ご協力の程、どうぞ宜しくお願い致します。

4. 議題

(1) (仮称)草津市立プール整備基本計画の策定方針について

○事務局

<資料3、4について説明>

●委員

- ・障害のある方にとって、水泳は人気のあるスポーツであるため、多くの方が利用しやすい施設として、出来れば基本計画策定の目的にある「子どもから高齢者まで」という文言に「障害のある方、障害者」という言葉を入れて頂ければと思う。

○事務局

- ・基本計画において、委員から提案頂いた文言を入れさせて頂きたい。

●委員

- ・障害のある方にも、このプールを全国を中心となって使ってもらえる施設にすればいいのではないか。
- ・策定方針に「全国規模の大会の招致」という記載がある。大会規模によるが、招致をしようとする、観客席は2,500席では足りない。観客席2,500席で開催したとすると、別に選手の控室が必要になってくる。
- ・プールと野村体育館の連携が非常に重要で、それぞれの機能を補完できれば、国体以外の全国大会を行う上でも、有利な条件で大会招致や運営ができる。方向性も含め、検討頂きたい。

●委員

- ・地域にとって交通渋滞や自転車、通行人で溢れないかが心配。プールと野村体育館、それぞれの駐車場は相当広い場所が必要と思うが、どのように考えているのか。
- ・利用者が競技レベルの高い人に限られないか。市民の中には様々な競技レベルの人がいるということを考慮してほしい。
- ・整備予定地の周辺地域にスポーツ施設を固めるという考えが行き過ぎている部分もあるのではないか。
- ・現在、暫定的に利用されているナイター設備の付いたサッカー場の移転について、

どのような考えをもっておられるのか、市の考え方を教えて欲しい。

○事務局

- ・駐車場について、野村体育館では、第1期、第2期工事で400台程度の整備を計画している。プールの駐車場は、日本水泳連盟の施設基準によれば、国体レベルの競技場で200台程度が望ましいということが記載されている。用地に限りはあるが、駅に近く街中にあるという事や、施設基準の内容を踏まえ、今後検討を進めていきたい。
- ・交通渋滞について、拡幅等の道路整備も含め、道路管理者等とも連携を図りながら進めていきたい。
- ・サッカー場については、現状を踏まえて代替施設の配慮が必要と考えているが、市内では場所が非常に少ないという状況であることもご理解を頂きたい。

●委員

- ・先程の2点目は、利用者の競技レベルに応じた利用方法を検討する必要があるということ。利用者を限定するような、国体の為だけの施設にならないようにすべきと考える。技量の高い人が独占的に使えるなど、利用方法に問題があってはならないと思う。もっと先の検討事項であるかもしれないが、今の策定方針や基本計画の中にそこまで入れるのか、市の考えをうかがいたい。

○事務局

- ・整備にあたっては、幅広い方々に利用していただける施設となるよう、施設整備の方向性等を基本計画で定めたい。また、このことは、運営方法等を検討するうえでの課題であると考えている。

●委員

- ・施設の概要にある「可動床」について、競技の水深基準によると、飛び込みで5m、競泳で2m、シンクロで3mとなっているが、0mまで上がる施設もある。一般の方や子どもが利用する場合は、水深を50cmや1m20cmに設定することも可能。
- ・特定競技の都合による水深ではなく、一般市民の方々に幅広く利用頂けるといふ観点から、可動床は必要である。

●委員

- ・一般利用の割合が多いプールでは、競技者が利用する際に肩身の狭い思いをされることもある。一般利用と競技者は分けて考えた方が利用しやすいのではないかと。

●委員

- ・最近は水球をする子どもが増えていると聞いている。そのため可動床は非常に良い施設である。ただし、指導者について、早い段階で取組・調整を行わないと、良いプールができて活用しきれないと思う。指導体制を早く考えて頂きたい。

●委員

- ・市民に施設を開放していく方向性なら、プール以外の付帯施設について基本計画の中である程度考えていくべきである。付帯施設の案を提示して頂きたい。

(2) (仮称)草津市立プール整備基本計画の策定スケジュールについて

○事務局

<資料5について説明>

●委員

- ・平成36年9月に国体競技を実施する場合、平成35年8月にリハーサル大会を実施しなければならない。国体競技が8月実施なら、平成35年4月に施設が完成しても、僅か4ヶ月間しかなく、リハーサル大会をするのは不可能に近い。国体を目指した地元選手の強化という観点から、ホームプールでの練習を2年間ぐらい行わないと感覚が掴めない。
- ・現在、滋賀県内に飛込プールが無く、選手が全く練習できていない。夏場でも、京都や三重に通って練習している状況である。1日も早くこのプールをオープンして頂きたい。最低でも平成34年9月に完成というのが希望である。
- ・基本計画の策定スケジュールでは、懇話会が2ヶ月に1回程度開催し、12月頃の最終結論になっているが、何とか1ヶ月半に1回ぐらいで行い、2ヶ月でも3ヶ月でも縮めて頂くことは出来ないか。

○事務局

- ・計画策定や建設工事等に様々な手続きを行う必要があるが、1日でも早い完成を目指して取組んでいきたい。

●委員

- ・今回は、各委員から様々な意見や要望が出ている。懇話会の2回目以降には、意見等の内容が確認できるよう資料を整理したものを付けて頂きたい。

○事務局

- ・そのようにさせて頂く。

●会長

- ・この懇話会は、結論を決めるものではなく、様々な意見を出し合うために開催するものであるため、どのような意見でも結構なので、ご意見いただければと思う。
- ・国体には「地域活性化種目」というものがある。ある地域は、縄跳びをやるなど、地域がスポーツで盛り上がりつつある取組である。せっかく体育館やプールが出来上がるということで、水泳だけでなく、草津から全国へ発信する為のキーワードがあればいいと思う。水泳に限らず色々なことができるのではないかな。
- ・くさつ健・交クラブでは、例えば国体に向けて会員の方々が、何か活動していくというムードづくり、ムーブメントというのは出来るものか。

●委員

- ・くさつ健・交クラブは、現在 18 種目のスポーツを扱っているが、現在、プール関係では活動はない。デモンストレーション種目というものがあることは聞いているが、現時点では提案等は出てきていない状況である。

●会長

- ・プール内でのエアロビクス等も非常に良い運動になると聞いている。このようなことも、この会議の中で話し合うことが必要ではないかと思う。

●委員

- ・施設の整備手法について、PFI 手法とした場合を考えると最短でも 24 ヶ月から 32 ヶ月の期間が必要となる。策定方針に「事業手法の検討」とあるが、早い段階で整備手法を例示するなど、懇話会で意見交換を行った方が良いのではないかな。

●委員

- ・女性は着替えに時間が掛かり、特に競技用ウェアは長い人で 20 分掛かるなど着脱が難しい。更衣スペースを充実してもらえるとありがたい。

●委員

- ・新幹線のぞみの停車駅から 20 分以内というアクセスの良いプールは全国でも希少であり、この計画は、近畿のみならず、全国から注目されている。
- ・今回の計画では、ナンバーワンではなく、オンリーワンのプールを造っていきたいと思う。飛込に関して、1 年を通して練習できるプールは、西日本には無く、全国

でも数か所しかない。関西から飛込競技のオリンピック選手は輩出しているが、練習先で苦労している。水球についても、冬場に練習できるプールが関西には殆ど無い。そういう視点から、何かアイデアを出して、全国から草津へ人が集まるオンリーワンのプールを造りたいと思う。

●委員

- ・地域交通等の安全面に配慮して頂きたい。

●委員

- ・施設的に競技主体というのは仕方がないが、市民の立場から、今後意見していきたいと思う。

●委員

- ・健康推進の面で、運動や生きがいということでプール整備に役に立てることがあれば、今後意見を出していきたい。
- ・野村公園とプールが道路を挟んで立地することになるため、交通の面で安全対策等を検討いただきたい。

6. 閉会

○事務局（岸本スポーツ保健課長）

- ・ありがとうございます。本日皆様から頂きましたご意見は、順次検討・確認してまいります。なお、第2回目の懇話会を4月下旬頃の開催を予定しております。

○閉会にあたって（明石教育部長）

- ・本日は委員の皆様、それぞれのお立場から施設のあり方、そして施設の運営、整備手法等の方針、会議の資料づくりまで、幅広く貴重なご意見を頂き、ありがとうございます。平成36年に開催されます国民体育大会・全国障害者スポーツ大会はもとより、野村運動公園や草津川跡地公園等の周辺施設との整合を取り、スポーツ健康づくりの機会を図るとともに、草津市が掲げております「健幸都市」としての魅力向上に繋げていきたいと考えております。

また、何より滋賀県の支援を頂くということに対し、市民のみならず、県民の皆様にも作ってよかったと言って頂ける施設を目指し、心して取り組んで参りたいと思います。ご意見頂いた水泳競技の大会や合宿の誘致、また、健康づくりの拠点として、交流人口の拡大や地域経済の活性化にも寄与するものと考えておりますので、2回目以降もご意見・ご指導頂けるよう、お願い申し上げまして、閉会にあたっての御礼の言葉とさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。